

セゾンマルチシリーズ 据付説明書

FDENP 362LXB～1602LXB

PFA012D610

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
リモコン及び電気工事の方法は、電気配線工事説明書（室内ユニット付属）をご覧ください。
室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事の方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
ワイヤードリモコンは別売です。
ワイヤレス機の場合は、裏面のワイヤレスリモコン据付説明書もご覧ください。

〈ご注意〉

- 下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
- 油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
- 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性がある場所。
熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
- 潮風が当る所（海浜地区）。外板、熱交換器の腐食の原因となります。
- 下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- アースを取ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は誤動作や感電の原因になることがあります。
- 漏電ブレーカーの取り付けが必要です。漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電や火災の原因となる場合があります。
- エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動及び運転音増大の原因になります。
- 冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m³）を超える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置等の取付けが必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
- 工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様

確認してください

配管・配線・小物部品

付
属
品




① ドレン関係

1	ドレンホース		1 個	ドレンホースクランプ付
2	断熱材		1 個	ドレンホースクランプ用
3	固定金具		1 個	ドレンホース用
4	ねじ (M4)		2 個	固定金具取付用


② 本体吊り込み用

1	平座金		8 個	ユニット吊り下げ用
---	-----	---	-----	-----------

③ フレアナット部断熱用

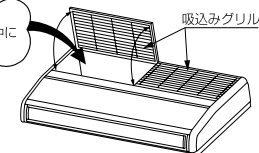
1	パイプカバー (大)		1 個	ガス側用
2	パイプカバー (小)		1 個	液側用
3	バンド		4 個	

④ 本体据付関係




1	型 紙		1 個	
---	-----	---	-----	--

付属品収納場所（梱包時）

③以外の付属品はここに収納されています。

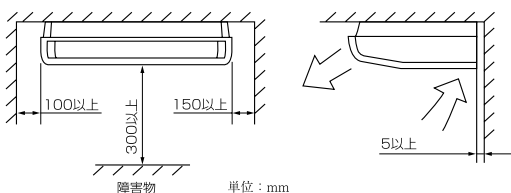


〈ワイヤレス機のみ〉

⑤	リモコン		1 個	
⑥	リモコン据付用			
1	リモコンホルダー		1 個	
2	リモコン用電池		2 個	単4 (R03)
3	木ネジ		2 個	リモコンホルダー用

据付場所の選定

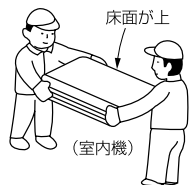
室内機据付スペース



- 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3 mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
 - 室外への配管、配線のしやすい所。
 - ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
 - 直射日光の当たらない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。（天井埋込で据付けの際に、ユニット天面に断熱材を貼付ける等、高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等、露付に対する配慮をしてください。）
 - 受信部に強い照明光が当たる所は、避けてください。（ワイヤレス機の場合）
 - 裏面の「ワイヤレスリモコンの操作距離」の項を参照し、ワイヤレスリモコンで確実に操作できる所を選んでください。（ワイヤレス機の場合）
- 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われるなら、板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

ユニットの搬入、据付

搬入



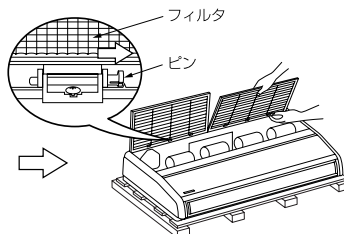
- 搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないよう注意してください。
(△ サイドパネル、吹出ルーバ等、プラスチック部分を持たないでください。)
- 解梱後、ユニットを置く場合は、必ずユニット床面側を上にして置いてください。

据付前の準備

- 吸込みグリルを取り外してください。ストッパー（4箇所）をスライドさせてください。



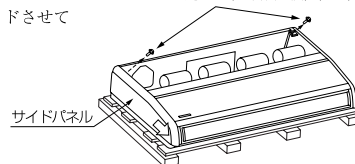
ピン（4箇所又は6箇所）を抜いてください。



- ユニット据付後、吸込グリルを取付ける時は、上記取外しと逆の手順で取付けてください。ピン（4箇所又は6箇所）、ストッパー（4箇所）は確実に装着されていることを確認してください。

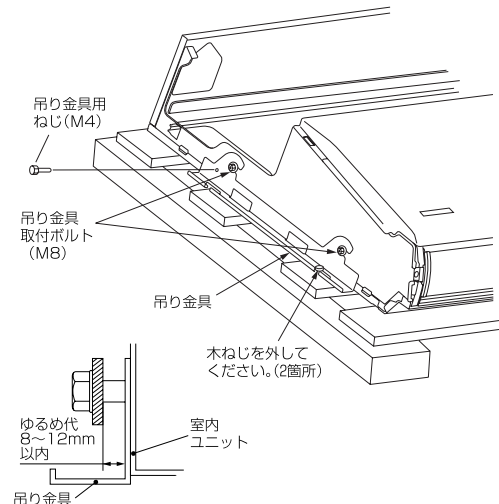
- サイドパネルを取り外してください。ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。

サイドパネル用ねじ(左右各1個) (M4)

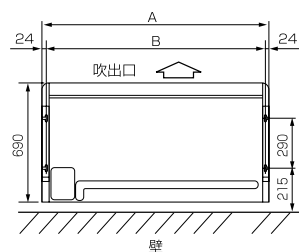


- 吊り金具を取り外してください。

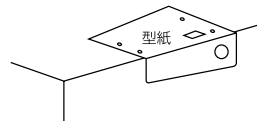
ユニットと木台を固定している木ねじ（2箇所）を取外してください。吊り金具用ねじを外し、取付ボルトをゆるめてください。



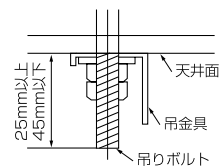
吊りボルトの位置



- 付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトの設置と配管用の穴あけを行なってください。
位置決定は、実測により行なってください。
位置決定後、型紙は取り外してください。



- 吊りボルトの長さは下記寸法を厳守ください。

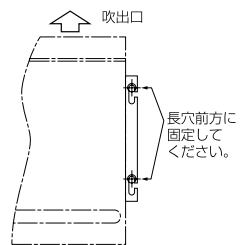


単位：mm

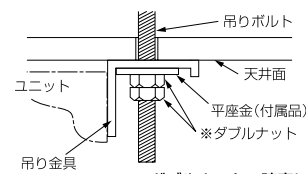
機種	36～56	71～90	112・140
A	1070	1320	1620
B	1022	1272	1572

据 付

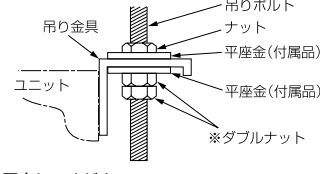
●吊り金具を吊りボルトに固定してください。



<天井材が有る場合>



<天井材が無い場合>



※ダブルナットで確実に固定してください。

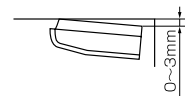
ドレン水の流れをよくするためユニットを排水側に下り勾配を設け据付けてください。

●左右方向

(図は右側にドレンホースを接続する場合)

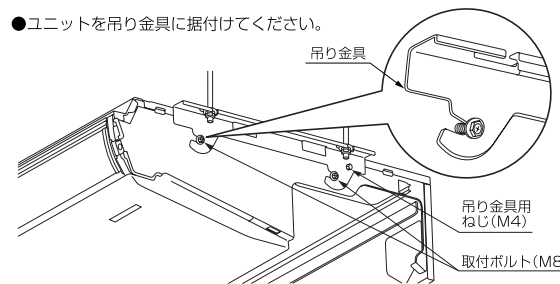


●前後方向



⚠ 逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

●ユニットを吊り金具に据付けてください。



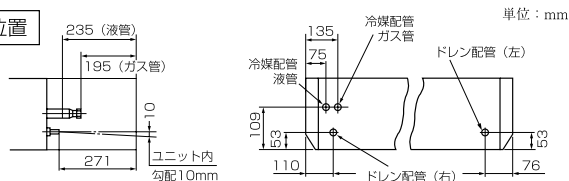
- (1)吊り金具前方より、ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。
- (2)取付ボルト(M8)を左右4箇所確実に締め付けてください。
- (3)ねじ(M4)を左右2箇所締め付けてください。

⚠ サイドパネルは、前から後方へ向け引っ付けた後、本体に確実にねじ止めしてください。

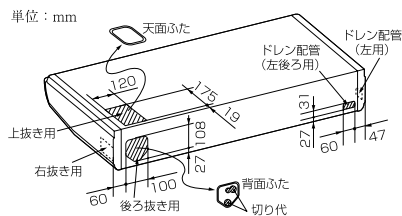
冷媒配管

は室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

配管位置



配管取り出し位置



配管取り出しは3方向より行えます。穴はニッパ等により切り落としてください。背面ふたは切り代に従って配管取り出し穴を切り抜いてください。天面ふたは配管位置に合わせて切り抜いてください。また、配管据付後、埃などが侵入しないよう、すきまをパテなどでふさいでください。

⚠ ユニット内への埃の侵入防止およびエッジ部での配線損傷防止のため、背面・天面ふたは、必ず取付けてください。

冷媒配管時の注意事項

- 配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。(材質)リン脱酸銅継目無銅管(C1220T、JIS H3300)
- 配管の曲げはできるだけ大きな半径で行ってください。曲げなおしを何回も行わないでください。
- 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
- 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。
- フレア接続は、以下のように行ってください。
- ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
- ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。

フレアナット締めトルク

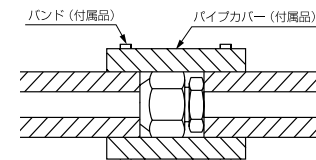
φ 6.35 : 14~18(N・m), (1.4~1.8kg・m), φ 9.52 : 34~42(N・m), (3.4~4.2kg・m)
φ 12.7 : 49~61(N・m), (4.9~6.1kg・m), φ 15.88 : 68~82(N・m), (6.8~8.2kg・m)
φ 19.05 : 100~120(N・m), (10~12kg・m)

- 室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※断熱しないと結露し水漏れします。

- 冷媒は室外ユニットに充填されています。(室内及び接続配管分の追加量については室外の説明書をご覧ください。)



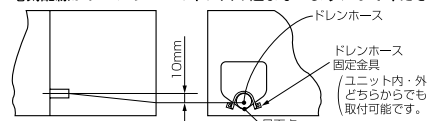
ドレン配管

- ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。
- ドレン配管を行う場合は、必ず付属のドレンホース、ドレンホースクランプの断熱材をご使用ください。
 - ①ドレンホースは、根本までしっかりと差し込んでください。
 - ②ドレンホースクランプは、しっかりと締め付けてください。
 - ③ドレンホースクランプを断熱しててください。
- ドレン配管を左側にて行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材（筒状）を右側接続口に付け換えてください。

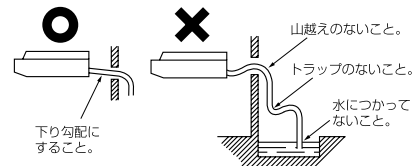
! ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。

△注意

ドレンホースは、下図のように付属の金具を用いて、たるみ無きよう最下点で固定し、10mmのドレン勾配を取ってください。
※電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。



! ドレンホースは金具で必ず固定してください。
ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。



配管施工後、排水が良好におこなわれていることと、水漏れのないことをご確認ください。

- 本説明書は、ワイヤレス機据付時のみご覧ください。
- 電気工事の方法は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

① リモコン

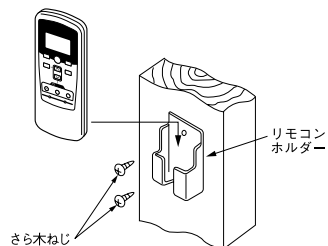
ワイヤレスリモコン(リモコンホルダー)の据付

お願い 次の位置は避けてください

- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

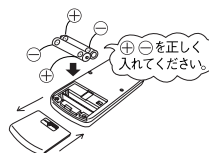
ホルダー取り付け時の注意

- ・垂直になる様、調節してください。
- ・ネジ頭が出ない様にしてください。
- ・土壁等へは取り付けしないでください。



■電池の入れ方

- ①裏ボタンを外します。
- ②乾電池を入れます。(単四 2本)
- ③裏ボタンを取り付けます。



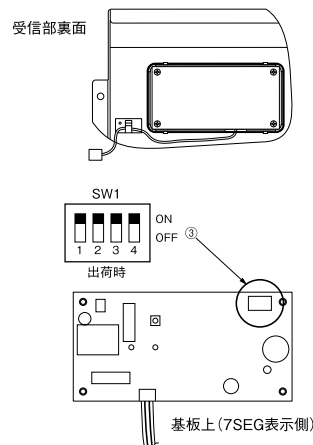
現地設定

受信部基板上のSWの設定は以下の通りです。
なお、出荷時は全てONになっています。

SW1-1	混信による誤動作防止	ON：通常 OFF：切換
SW1-2	受信部の親子切換	ON：親 OFF：子
SW1-3	ブザー音の有無	ON：有り OFF：無し
SW1-4	冷凍/ヒートポンプ切換	ON：ヒートポンプ OFF：冷凍

<設定を変更する場合>

- ①フロントパネルを取外してください。
- ②受信部裏面のねじ4本を外し、基板を取外してください。
- ③基板上(7SEG表示側)のSWを変更してください。



<混信による誤動作を防ぐ方法>

受信部基板上のSW1-1をOFFにし、リモコン側も下記のように設定変更してください。

[風向] ボタンを押しながら[リセット] スイッチを押すか、[風向] ボタンを押しながら電池を投入すると設定が混信防止設定へ切り換わります。

ご注意 ※一度電池を取り外すと初期設定(工場出荷時設定)へ戻ります。
電池を取り外した時は、再度、上記操作を行ってください。

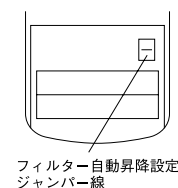
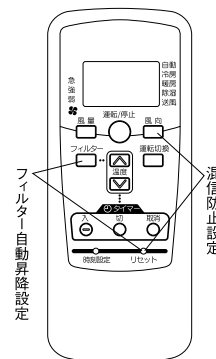
<自動昇降パネル(オプション)を使用する際の設定>

自動昇降パネル(オプション)を使用する際、次の①又は②のいずれかの方法によりリモコン設定を変更してください。

- ①[フィルター] ボタンを押しながら[リセット] スイッチを押すか、[フィルター] ボタンを押しながら電池を投入するとフィルター自動昇降モード有効に切り換わります。
- ②リモコン裏ボタンを外し、ジャンパー線を切断すると、フィルター自動昇降モード有効に切り換わります。

(設定を実施すると、フィルター自動昇降モード時、ディスプレイに「フィルター」と表示されます。)

ご注意 ※①の方法により設定した場合、一度電池を取り外すと初期設定(工場出荷時設定)へ戻ります。
電池を取り外した時は、再度、上記操作を行ってください。



上記操作方法を必ずお客様に説明してください。
(操作方法はエアコン本体に付属の取扱説明書にも記載してあります。)

1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

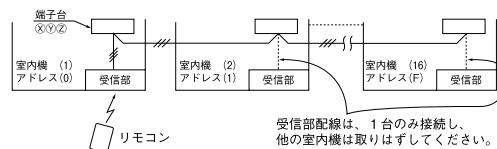
室内ユニット最大16台まで接続可能です。

①各室内ユニット間を3心の渡り線にて配線してください。

渡り線については下記を参照願います。

②受信部配線は、リモコンで操作する室内機1台のみ接続しておき、他の室内機は、端子台⑧⑨⑩からはずすか、端子台～受信部間のコネクタCnB(3極、白色)をはずしてください。

③室内基板上のロータリースイッチSW1・SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように「0」～「F」に設定してください。



渡り配線を延長する場合の注意

▶ 最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。

●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C（京阪電線）〕

注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。

100～200m以内……0.5mm²×3心

300m以内……0.75mm²×3心

400m以内……1.25mm²×3心

600m以内……2.0mm²×3心

●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

※ご注意：上記のような接続の場合、2つまで受信部の使用が可能です。2つの受信部を使用する場合、いずれか一方の受信部基板上のSW1・2をOFFにし、子とする必要があります。

(切り換えは、本説明書「**現地設定**」をご覧ください。)

また、その他の受信部は使用できませんので、コネクタは接続しないでください。

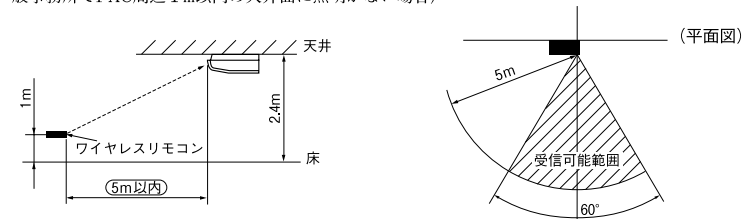
(コネクタを接続しない受信部のLEDの表示はできません。)

ワイヤレスリモコンの操作距離

①標準的な受信距離

〔条件〕受信部照度360ルクス

(一般事務所でPAC周辺1m以内の天井面に照明がない場合)



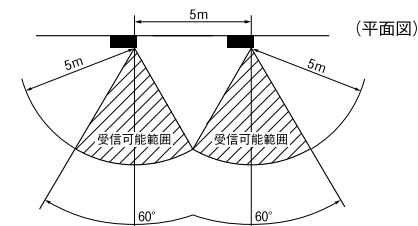
②複数台近接設置時の注意

〔条件〕受信部照度360ルクス

(一般事務所でPAC周辺1m以内の天井面に照明がない場合)

同一リモコンを使用した場合、同一動作を防止できる最小距離は5mです。

(混信による誤動作を防ぐ方法は「**現地設定**」の欄を参照ください。)



○リモコンスイッチを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。

○操作距離は、受信部照度、部屋壁面の反射状態により変化します。

○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合は、操作距離が短くなったり、受信しなくなる場合があります。

⑧ バックアップスイッチ操作

パネル表面受信部にバックアップスイッチ装備しています。

ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に應急的に使用してください。操作は手で直接してください。

(1) 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。

風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」

(2) 運転中に押すことにより「停止」します。

(3) オートリフトパネル（オプション）使用時、2秒以上押し続けてから離した場合、オートリフトパネル上昇となります。

お願い

冷暖フリーマルチ以外の機種でバックアップスイッチにて運転を開始すると、送風運転となる場合がありますが、これは他のユニットと運転モードが異なるために起こります。応急的な場合を除き、ワイヤレスリモコンにて運転を開始してください。

⑨ 試 運 転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

室内機からの冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。

⑩ 2桁表示の見方

受信部に2桁表示（7セグ）を装備しています。

(1) 表示は電源投入後1時間表示します。

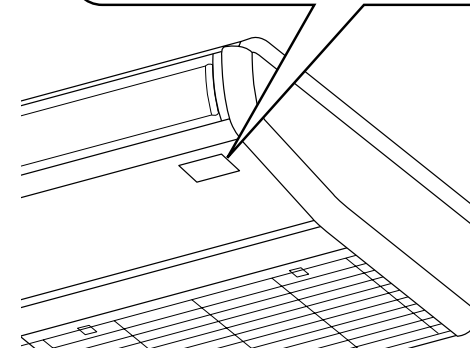
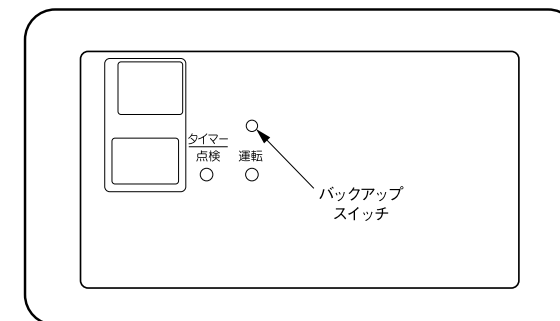
(2) エアコン停止中に、ワイヤレスリモコン「停止」信号送信により3.5秒間表示します。

(3) 以上の表示は、運転開始により消灯します。

(4) 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。

(5) 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。

(6) 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコン「停止」信号送信によりクリアされます。



電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線取り出し穴位置および電気配線接続

電源配線

⚠ 警 告

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災の恐れがあります。
- 電源配線の仕様・サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」、「内線規程」に従ってください。また、接続部の緩みがないようにしてください。
- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置すること。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないこと。併用した場合、ブレーカー落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。

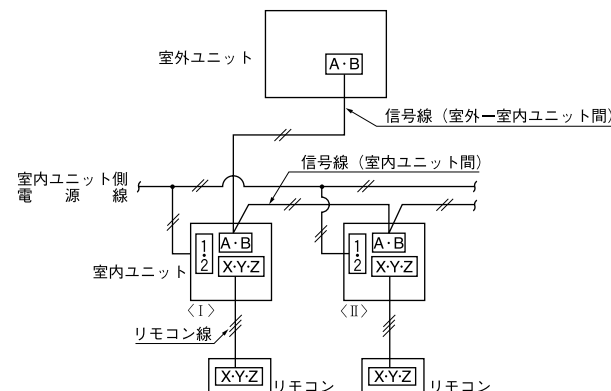
⚠ 注 意

- 8mm²を超える太さの配線は接続不可能です。8mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
- 信号線用端子台に200Vを接続しないでください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

- 1) 電線は銅線以外のものを使用しないでください。
- 2) 電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源。
- 3) 電気ヒータ（別売品）は含んでおりません。
注）電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
- 4) 同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになる様にしてください。
- 5) 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。

配線系統図（室外・室内ユニット接続要領）



電源仕様

(50/60Hz)

室内ユニット 合計電流 (A)	配線用遮断器 定格電流 (A)	漏電遮断器		
		定格電流 (A)	感度電流 (mA)	動作時間 (sec)
7以下	20	20	30	0.1以下
11以下		20		
12以下	30	30		
16以下		30		
19以下	40	40		
22以下		40		
28以下	50	50	100	

天吊形ワイヤレス 8-8/10

配線仕様

室内ユニット 合計電流 (A)	電源用 配線太さ (mm ²)	配 こ う 長 (m)	信号線太さ	
			室外-室内 (mm ²)	室内-室内 (mm ²)
7以下	2	21	0.75~2.0 × 2 本	0.75~2.0 × 2 本
11以下	3.5			
12以下	5.5	33		
16以下		24		
19以下		20		
22以下	8	27		
28以下		21		

注(1) 配線こう長は、合計電流値の最大値で記載してあります。

(2) 室内ユニット接続線は5.5mm²まで使用可能です。8.0mm²以上の配線をご使用なされる場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。

(3) 配線こう長は、電圧降下を2%とした場合を示します。上表の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチの場合

分流コントローラの配線

- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

(1) 自動アドレス設定 (2) 手動アドレス設定 (3) リモコンアドレス設定

上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

なお、(3) リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線及び機能

リモコン リモコンは別売です。

リモコンの据付 お願い 次の位置は避けてください。

- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

取付要領

露出取付

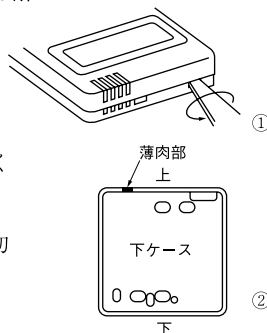
① リモコンケースをはずしてください。

- リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。

② リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。

- リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。

③ リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。



④ リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。

端子：⑧ 赤線、⑦ 白線、② 黒線

リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下とってください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。

各配線の皮むき長さは下記の通りです。

黒：195mm
白：205mm
赤：215mm

⑤ 上ケースを元通りに取り付けてください。

⑥ リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。

⑦ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

機能の設定の項をご覧ください。

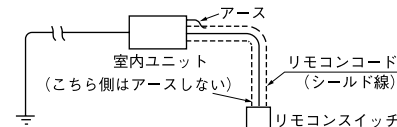
リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。

●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C(京阪電線)〕

注(1) 延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

- 100～200m以内……0.5mm²×3心
- 300m以内……0.75mm²×3心
- 400m以内……1.25mm²×3心
- 600m以内……2.0mm²×3心



- シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

埋込取付

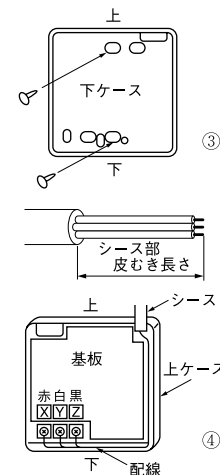
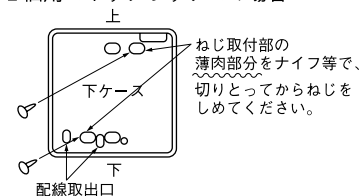
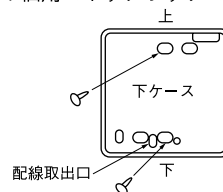
① JISボックスとリモコンコード(延長の場合はシールド線を必ず使用)をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕

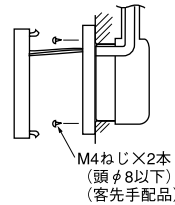
- JIS C 8336 1個用スイッチボックス
- 2個用スイッチボックス

1個用スイッチボックスの場合

2個用スイッチボックスの場合

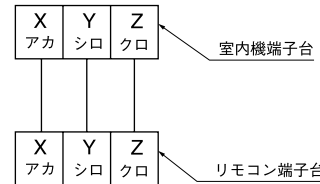


- ②リモコンの上ケースを外してください。
- ③下ケースをM4ねじ2本(頭φ8以下)を用意してJISボックスに取付けてください。
- ④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
- ⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
- ⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。



リモコンと室内の配線

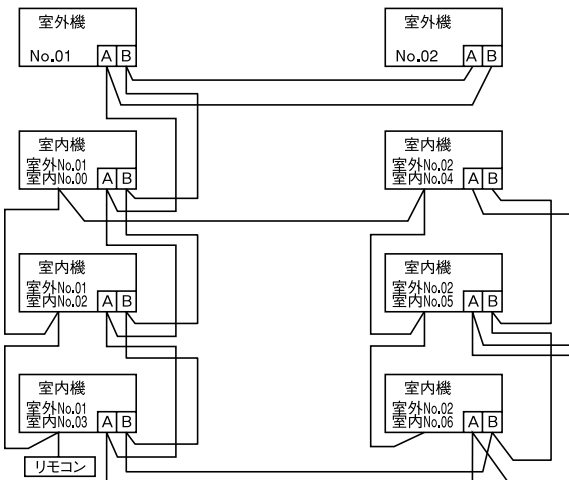
- リモコン配線は極性があります。
必ず同一端子台No.同士接続してください。



リモコン複数台制御

配線要領

- グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。(3本)
- 室内ユニットリモコン用端子台XYZに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
- 配線は0.5mm²以上を使用してください。(配線の引廻しに耐えるもの)
- 渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
- 室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
- 室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
- 下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
- 1つのリモートコントローラで複数台のユニット(最大16台)をグループ制御できます。
- 室内基板上のロータリースイッチSW1、SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように設定してください。



電源投入後、リモコンの[エアコンNo]を押すと室内機アドレスが表示されますので、
▲ ▼ ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、
必ず確認してください。

機能の設定

- リモコン及び室内機の各機能は、接続される室内機により自動設定されます。
(標準的な使い方をする場合は設定の変更はいりません。)
- 但し、グリル昇降設定と、特別に初期設定を変更する必要がある場合は、設定を変更してください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラクリーナパネル
ご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

各機能の初期設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号 (A)	機能内容 (B)	設定内容 (C)	初期 設定
01	グリル昇降設定	昇降無効 有効50Hz地区 有効60Hz地区	○
02	自動運転設定	自動運転有効 自動運転無効	 ○
03	温度設定	温度設定有効 温度設定禁止	○
04	運転切換	運転切換有効 運転切換禁止	○
05	運転/停止	運転/停止有効 運転/停止禁止	○
06	風量調整	風量調整有効 風量調整禁止	※
07	風向調整	風向調整有効 風向調整禁止	※
08	タイマー	タイマー有効 タイマー禁止	○
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効 リモコンセンサ有効	○
10	停電補償設定	停電補償無効 停電補償有効	○
11	換気設定	換気接続なし 換気連動 換気非連動	○
12	温度範囲設定	表示変更有 表示変更無	○
13	室内ファン速調	ファン3速 ファン2速 ファン1速	※
14	冷専/ヒーボン	ヒーボン 冷専	※
15	外部入力設定	個別運転 全台同一運転	○
16	エラー表示設定	エラー表示有 エラー表示無し	○
17	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフリー停止	○

(2) 室内機能

機能番号 (A)	機能内容 (B)	設定内容 (C)	初期 設定
01	高天井設定	標準 高天井1 表示しない	○
03	フィルターサイン設定	180時間後 600時間後 1000時間後 1000時間→停止	 ○
04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフリー停止	○
05	外部入力切換	レベル入力 パルス入力	○
06	運転許可/禁止	通常運転 有効	○
07	暖房室温補正	通常運転 室温補正+3℃	○
08	暖房ファン制御	弱風 停止→弱風	○
09	凍結防止温度	2.5℃ 1℃	○
10	凍結防止制御	ファン制御有効 ファン制御無効	○
11	電気集塵機	ファン制御無効 ファン制御有効	○
12	加湿器制御	ドレンモータ非連動 ドレンモータ連動	○

注1.「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

天吊形ワイヤレス 8-10/10

機能番号 (A)	機能内容 (B)	設定内容 (C)	初期設定
06	風量調整	風量調整有効	室内ファン風量 2、3 速の機種
		風量調整禁止	室内ファン風量 1 速の機種
		風向調整有効	オートシングルルーバ搭載機種
07	風向調整	風向調整有効	その他
		風向調整禁止	
13	室内ファン速調	ファン 3 速	室内機ファン風量 3 速の機種
		ファン 2 速	室内機ファン風量 2 速の機種
		ファン 1 速	室内機ファン風量 1 速の機種
14	冷専/ヒーボン	ヒーボン	ヒーボン機
		冷専	冷専機

注 2. 室内機に機能がない内容の場合、設定しても室内機は作動しません。

注 3. (1)のリモコン機能の⑦ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

④ 制御の切換

囲みが工場出荷時の設定

室内機の制御内容を下記方法にて切換可能です。

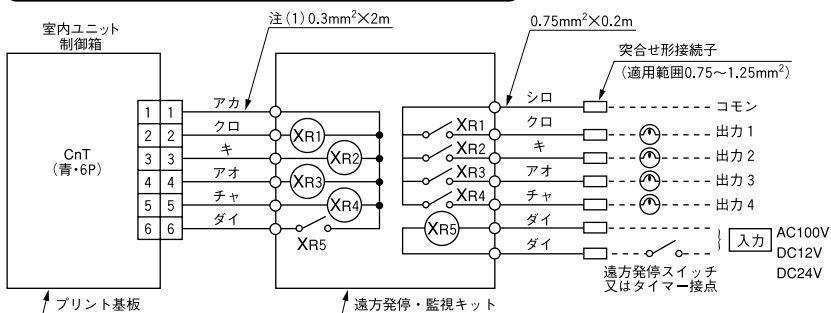
SW5-1	ON	ドレンポンプ試運転	
	OFF	ドレンポンプ自動	
SW5-2	ON	加湿器残留運転 有効	
	OFF	加湿器残留運転 無効	
SW5-3	ON	外部入力 パルス入力	
	OFF	外部入力 レベル入力	
SW5-4	ON	緊急停止信号 有効	
	OFF	緊急停止信号 無効	
SW6-1	機種容量設定		
SW6-2			
SW6-3			
SW6-4			
SW9-1	ラクリーナパネル降下長設定		
SW9-2			
SW9-4	ON	ファン制御	高速（高天井）
	OFF	ファン制御	標準

J1	短絡	フィルタサイン有効		
	開放	フィルタサイン無効		
J2	短絡	運転制御標準		
	開放	運転許可禁止		
J3	短絡	暖房サーモOFF制御はJ4による		
	開放	暖房サーモOFF時停止		
J4	短絡	暖房サーモOFF時Lo風量運転		
	開放	暖房サーモOFF時間欠運転		
J8	短絡	加湿器ドレンポンプ非連動		
	開放	加湿器ドレンポンプ連動		
J10	リモコン風量表示の切換 ×：開放 ○：短絡			
J11	記号	設定 1	設定 2	設定 3
	J10	○	×	○
	J11	○	○	×
	風量切換設定	3 速 (急/強/弱)	2 速 (急/弱)	1 速 (風量調整無効)

※ 風量切換設定の工場出荷時設定は、室内機により異なります。

注) 機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能



注 (1) 2 mより長くしないでください。

- XR1~4はDC12Vリレー (オムロンLY2F相当品)
- XR5は、DC12, 24V又はAC100Vリレー (オムロン製MY2F相当品)
- CnTコネクター (現地側) メーカー、形式

コネクター	モレックス	5264-06
端 子	モレックス	5263T

●機 能

出力 1	エアコン運転出力 (エアコンON時XR1=ON)	
出力 2	暖房出力	
出力 3	サーモON出力 (サーモON時XR3=ON)	
出力 4	エアコン点検出力 (エアコン点検時XR4=ON)	
入力 5	出 荷 時	XR5 OFF⇒ON エアコンON
		XR5 ON⇒OFF エアコンOFF
	現 地 切 換 (SW5のNo.3をON)	XR5 OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

- 冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ (別売品) の据付説明書をご覧ください。
- 遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。

1. ドレンポンプ強制運転の開始

①[試運転] ボタンを 3 秒以上押します。

「項目◆で選択」→「[セット]で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。

②「冷房試運転▼」の表示の時に、[▼] ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。

③[セット] ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。

表示：「ドレンポンプ運転」→「[セット]で停止」

2. ドレンポンプ運転の解除

④[セット] ボタン又は、[運転/停止] ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。エアコンは停止状態となります。

⑦ 試 運 転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑨ 工事完了後のチェック項目

- 電源電圧は本体表示と同じですか。
- 室外機側でアース工事はされていますか。
- 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
- 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。